

才華爛発 井草祭で育む二つの力

第 68 回井草祭にお越しいただいた 4000 名を超える皆様、御来校いただきありがとうございました。

「井草生の才能を鮮やかに発揮させる文化祭にしよう」という生徒諸君の想いがこめられたスローガン「才華爛発」のもと、常任委員長による「井草祭に参加するすべての人が楽しめる文化祭にしよう」との開会宣言で、二日間の井草祭は始まりました。

全校企画、モザイクアートからの変更、新しい形への挑戦でした。SNS 世代の生徒らしいフォトスポットとしての正面ゲートでは、多くの方が記念写真を撮影する姿がありました。校内へ誘うアプローチとして定着した看板は、興味をひかれて行ってみたくなるものや、立体的な装飾、丁寧な文字装飾が施されたものなど、素敵な作品がありました。

劇、動画では、演劇部の完成度の高い演技に感心する来場者の声を聴いたり、一学年の取組の中に、高校の文化祭にふさわしい真剣な演技、脚本の工夫がみられる作品を見つけ感心したりと、一つ一つの作品から垣間見える井草生の日常に思いをはせ、興味深く感じました。展示、販売では、二学年の取組の中に、アトラクションの安全性を担保するために試行錯誤の様子や直前までより良いものを創造しようとする姿勢が見られたり、三学年の取組の中には、慣れない器具で暑い中での調理、綺麗に作られた小道具や工夫をこらした教室の装飾があったりなど、奮闘しながら諦めずに取組み続ける姿がありました。いかにお客さんに来てもらうか、プラカードで練り歩き宣伝をしている団体、来場者のタイミングに合わせて臨時上映をしている団体、来場者の声を聴いてその場で展示に工夫を加えている団体など、臨機応変に対応し、来場者を楽しませようとしている様子が見て取れました。

中庭、体育館、特別教室での発表や展示は、有志団体も参加し、文化祭を盛り上げていました。特に部活動については、日頃の活動の成果が表れ、来場者の興味をひいていたように思います。できなかったことができるようになった、新しいことに挑戦してみたなど、継続して取り組んでいるからこそその学びの成果が表現されており、質問を受ける、拍手で努力を称えてもらうなど、来場者から好意的な反応を多数いただいている様子が印象的でした。

井草祭パンフレットの御挨拶に記した通り、現在の国内や世界の状況を思うとき、井草祭を予定通り開催できたことは大変幸せなことであると考えます。人が、様々な状況下で、現実を受け入れ幸せに生きるためには、imagination と creativity が欠かせません。Imagination は、未知のものや他者の気持ち、現実の行動の先に起こる結果や周囲への影響、そして現実を超えた世界を想像する力、Creativity は、他者と協力し自らの能力を発揮して、新しいもの、さらにはよりよい現実を創造する力、どちらも生きるために欠かせない「そうぞう力」です。現実絶望したとき、想像力が我々の心を救ってくれます。生きるために必要な状況を整えねばならないとき、創造力が我々に生きるすべを与えてくれます。学校行事は、自分と異なる価値観と出会い、葛藤を経験し、自らの至らなさを自覚したり新たな視野を得たりしながら、想像力と創造力を育む教育活動です。当日参加できた生徒もできなかった生徒も、

文化祭を心待ちにしていた生徒もそうでなかった生徒も、井草祭という学校行事を通して、自らの内にある二つの力をさらに育んでくれたことでしょう。

最後に、井草祭開催に当たり御理解をいただいた近隣の皆様、様々な支援に御尽力いただいた保護者の皆様、常任委員長を筆頭に新たな文化の創造に挑戦した生徒諸君、そして生徒の挑戦を全力で支えてくれた全ての皆様に、改めて感謝いたします。

令和6年9月9日 校長